

勇壮な舞い、観客魅了 中江岩戸神楽の定期公演始まる



中江神楽殿で4月6日、中江岩戸神楽の定期公演が始まり、同神楽保存会（佐藤義勝会長）や波野小子ども神楽クラブが、五方礼拝や岩戸開きなど5演目を披露し、観客約100人が楽しみました。

も出向き公演しています。佐藤会長は「阿蘇市の平穩無事を祈るため、市民の皆さんにもぜひ神楽を楽しんでもらいたい」と話しています。

定期公演は10月を除く毎月第1日曜、午後1時からです。ぜひお越しください。（入場無料）



WebTV アソ
動画

農業と観光を 「食」でつなぐ試食会！



参加者の皆さん

阿蘇青年会議所が3月18日、市内の飲食店で阿蘇の農作物を生かした料理の試食会を開き、関係者40人が参加しました。「食」を通して阿蘇の魅力向上を図るのがねらいで、若手農業者と市内飲食店の料理人が協力。農業者が提供した米、高菜、イチゴ、ヤマメなど28種類の食材を使い、料理人が計23品を作りました。

阿蘇の大地が育んだ素材の味を十二分に引き出された料理の数々に、試食した参加者はさらなる農業と観光振興に手応えを感じたようです。



WebTV アソ
動画

塗装・防水工事・メンテナンスまで

井上 株式会社

〒869-2302熊本県阿蘇市三久保448番地22

web <http://www.aso-inoue.com/>

E-mail info@aso-inoue.com

受付 平日 9:00~18:00

※土日祝日は事前連絡により対応可



-お見積・調査 無料-

塗装（屋根・壁・破風板・軒天・塀・建具・他）

防水（雨漏れ調査・屋上・ベランダ・コキガ・他）

もしもし 0967-32-1501

広告

第9回
阿蘇市民スポレクフェアの結果

健康増進と市民間の親睦を図る目的で、市が毎年開催する阿蘇市民スポレクフェアが3月8日、阿蘇体育館で開かれました。

ことしの競技種目はショートテニス、アジャタ、ヘルスバレーボールの3種目で、体験スポーツとして実施したヘルスバレーボールでは、初めて体験する方も多い中、夢中になって楽しむ姿が見られました。

大会結果は、以下のとおりです。

ショートテニスの部

(Aコート優勝)

ジェジェジェ

(Bコート優勝) ぼくたち、中学校でテニス部でしたチームA

(Cコート優勝) ぼくたち、中学校でテニス部でしたチームB

アジャタの部

優勝 阿蘇市教育委員会・ぼくたち、中学校でテニス部でしたチームA連合



◀ショートテニスの部Aコート優勝「ジェジェジェ」



▶ショートテニスの部B・Cコート優勝「僕たち、中学校テニス部でした」

新たに48人が入団 消防団辞令交付式

阿蘇市消防団辞令交付式が4月1日、市役所で行われ、昇任者と新入団員に高宮隆博団長から辞令が交付されました。

ことしは、女性消防班員2人を含む、48人が新たに入団。新入団員の島田博幸さん（黒流町）は「地域のために貢献できるよう頑張っていきたい」と豊富を語りました。

本年度の消防団幹部は以下のとおりです。



辞令交付の様子

●平成26年度消防団幹部（太字は新任）

職名	氏名
団長	高宮 隆博
副団長	梅野 孝徳
副団長	楢木野政一
副団長	甲斐 桂史
第1分団長	荒木 仁
第2分団長	井 紀仁
第3分団長	宮崎 英雄
第4分団長	藤岡 周治
第5分団長	白石 忠幸
第6分団長	加藤 雄二
第7分団長	岩下 幸秀
第8分団長	井野 敬介
第9分団長	靄林 英樹
第10分団長	森崎 司
第11分団長	吉良 敏幸
第12分団長	家入 靖幸
女性消防班長	今村加奈子

サクランボ通じて地域交流

上井手・下井手地区が

さくら功労者賞受賞

サクラの植栽や愛護、振興事業に功績があった個人、団体に贈られる平成26年度さくら功労者表彰（公益財団法人日本さくらの会主催）に、上井手・下井手地区が選ばれました。

両地区は、地元の井手菅原神社参道に平成10年以降、ソメイヨシノの植栽を始め、住民総出で境内の清掃活動や樹木の消毒、選定作業などを行い、境内の環境改善に尽力。「サクラ」を通じ地域活性化につなげた功績が認められ、今回の受賞となりました。

上井手の井手伸一区長は、「これから地域の憩いの場として活用していきたい」と喜びを語りました。



市役所内で行われた表彰状伝達式で、代表して表彰状を受け取った上井手の井手区長。

阿蘇の草原を次世代に 西湯浦牧野で半世紀ぶりに野焼き再開



(上) 野焼き実施のようす
(下) 4月6日に行われた火入式のようす。蒲島知事をはじめ関係者100人が参加し、野焼きの安全を祈願しました。

西湯浦の農家などで行われる西湯浦草原再生委員会（今村隆孝委員長）は4月8日、半世紀以上野焼きを中止していた北外輪山約45分の野焼きを実施しました。

草原減少に歯止めをかけようと昨年10月から灌木の伐採や防火帯づくりなど、官民が協力して取り組み、野焼きには、地元牧野組合員やボランティアなど総勢105人が参加。原野に火を放つと、勢いよく燃え広がり、一部、雑木などが残ったものの無事に焼き終えました。

今村委員長は「どこまで火が入るか心配だったが、今回の実施である程度見通しが立った。3年ないし5年かけて草原に戻していきたい」と話していました。

